「出題の意図」

選抜区分	２０２５年度　（選抜区分：一般選抜　前期日程） 地域創生学群　地域創生学類　（科目名：課題論文）
出題の意図 （評価のポイント）	**１．課題論文における出題の背景と求める能力** 「地域創生を考え実行していく際に必要な知識に関連すること」、「地域創生学群の学生に備えておいて欲しい能力に関連する内容を含んでいること」、および「受験生にとって理解しやすい文章であること」の三点を出題文の選定基準とした。その結果、今井悠介著『体験格差』講談社現代新書、の「はじめに」の一部を出題文とした。 設問は、「以下の文章を読み、子どもたちの「体験」に関する日本社会の現状に対する筆者の認識を 200 字程度でまとめなさい。そのうえで、「体験格差」があることが社会にもたらしているかもしれないマイナスの影響について、あなたの考えを論じなさい。分量は全体で 400 字以内とする。」とした。 設問の意図は、本文の内容および設問の指示を正しく理解する読解力を有しているか、また、自分自身の考えを論理立てて記述する能力を有しているか、を見ることにあった。加えて、自分の意見を他者に伝えるスキルとして正しい日本語を使うことができるか、一定の語彙力を有しているかも評価のポイントとした。 **２．解説** 出題文は、子どもの成長に大きな影響を与えうる多種多様な体験を「したいと思えば自由にできる（させてもらえる）子どもたち」と、「したいと思ってもできない（させてもらえない）子どもたち」がおり、そこに大きな格差があることに着目し、日本社会において「体験格差」への関心や取り組みが不十分であるという観点から筆者の考えを論じている。 設問においては、①筆者が論じていることをまとめること、②格差の存在が社会にもたらしているかもしれない影響について自分自身の考えを論じること、の二点を求めている。 ①については、200 字程度という限られた分量のなかで、筆者の主張を理解し的確に要約できているかが評価のポイントとなる。②については、筆者の主張を理解したうえで社会課題に関連づけて自分の考えを論じることができているかが評価のポイントとなる。 全体を通し、論理性の高い記述を行った回答に対しては高い評価を与えている。

「出題の意図」

選抜区分	２０２５年度　（選抜区分：一般選抜　前期日程） 地域創生学群　地域創生学類　（科目名：集団討論）
出題の意図 **（評価のポイント）**	一般選抜入試では、地域社会の諸問題に強い関心を示し、探究心を持つ学生を求めている。地域創生学群では、求められている課題を的確に理解し、それに応じて自分の考えを明確に表現できること、地域の方々と協働していくための基本的なコミュニケーション能力を有していること、課題に対して主体的かつ積極的に関わろうとしていること等が重要になる。集団討論の評価のポイントは、これらの点に置いている。 今回の一般選抜入試においては受験生が面接室に入室後に集団討論課題を提示する方式とした。課題の内容は下記のとおりである。 地域には様々なタイプの人がいますが、多様な人が力を合わせて地域課題の解決に向けた活動に取り組んでいくことが重要です。 多様な人が地域での話し合いに参加し、意思表示し、行動できるようにするには、どのような視点や工夫等が必要でしょうか。 議論して、意見をとりまとめてください。 とりまとめた結果は、面接官に対して 2 分間以内で口頭発表してもらいます。タイマーに示された時間が残り約 2 分となったところで自発的に発表を開始してください。なお、発表は着席したまま実施してください。発表者は一人でも複数でも構いません。 また、確認事項として「この集団討論は、求められた課題を的確に理解し、それに対する自らの考えを他者との積極的な議論を通じて深めつつ、課題のとりまとめに協働して貢献することができるか等について、受験生一人ひとりの力を評価するものです。」と文章で明示し、評価のポイントが主にどこに置かれているか受験生に示したうえで集団討論への取り組みを求めた。 課題については、受験生に理解しやすく、かつ地域創生学群での学びに直結するテーマ・方式とする観点から作成し、討論の過程における状況に基づき受験生一人ひとりの評価を行った。